

令和7年度 能美市立福岡小学校 学校評価【中間評価】

重点目標 (めざす姿)	重点目標及び具体的方策	主 担 当	【評価の根拠】 達成度判断基準	1学期の取組状況	評価  今後の改善策 (いつ・誰が・何を・どんなふうに・めざす子どもの姿)
組織的な 学校運営	①(安心・安全な学校生活・危機管理) 児童が安心して明るく元気に学校生活を送れるよう、物心両面における安全管理と危機管理に努め、いじめ・不登校等の未然防止をはじめ、課題に対して組織的に迅速・適切に対応する。	教頭	【児童アンケート①】 ・学校は楽しい。 【保護者アンケート①】 ・お子さんは、楽しく学校へ通っている。 【教職員アンケート①】 ・いじめや不登校等の課題に、組織として迅速・適切に対応している。 A: +評価90%以上 B: 80%～C: 70%～D: 70%未満	【児童①96.1%】【保護者①96 %】【教職員①100%】 全職員が児童についての様々な気づきを管理職や担任等に素早く報告・連絡・相談の体制が整っている。いじめ・不登校傾向などの対応については、担任による聞き取り・面談等を中心に、複数の対応を迅速にしている。保護者への連絡・面談等も密にこまめに、専門機関との連携も取り、児童が安心して学校生活を送らせるよう努めている。常に情報や変化に対して敏感に気づけるようにし、全職員が教育活動にあたっている。	A 今後も全教職員で、児童が安心して明るく学校生活を送れるよう、児童の小さな変化を見逃さず、教育活動にあたっていく。毎月の児童理解の会を継続し、いじめ、不登校等の課題については早期発見・早期対応に心掛け、複数の組織的な対応ができるようにする。 また、危機管理の徹底を図るため、ヒヤリハット事例を見逃さず、全教職員で情報共有し、迅速かつ組織的に対応していく。
	②(組織的な教育活動の推進) 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組む。	教務	【教職員アンケート②】 ・「学校経営ビジョン」具現化のための各自の役割を認識し、組織的・計画的に実践し、検証を経て改善している。 A: +評価90%以上 B: 80% C: 70%～D: 70%未満	【教職員②100%】 各種ロードマップについて、各主任を中心に部会ごとに検証を行い、修正があれば、共通理解を図ってきた。学力調査の分析等から見えた課題を認識しながら、授業に取り組んできた。教育活動は計画的に行う一方、様々な状況において問題や課題があれば、その都度相談しながら、改善されるよう全職員で取り組むことができた。	A 全職員で、カリキュラムマネジメント研修を行い、PDCAサイクルを回しながら学校経営ビジョンを具現化しようという意識づけを改めて行う。それぞれの部会で研修会を設け、全職員で共通理解を図り、これからの具体的な方策や検証の仕方にについて確認する。職員終れば、それぞれ部会で行う取り組みについて声掛けや確認を行う。
	③(業務改善) 教職員が常に時間管理意識やワーク・ライフバランス意識を保持し、業務のスリム化・効率化・平準化を図る。	教頭	【教職員実態調査】 ・時間外勤務時間の平均が45h以内の割合。 A: 平均40h以内 B: 平均45h以内 C: 平均45h以上	【教職員実態調査 時間外勤務平均40時間以内】 時間外勤務時間の平均は40h以内となり業務改善が進んでいる。しかし、1学期の時間外勤務が45時間を超えていたのは、主に管理職と主任であり、業務の平準化が必要と考えられる。スクールサポートスタッフに事務的なことは引き受けてもらったり、教務やGIGA担当を中心として、校務DX化を進めたりして業務改善を図っている。	A 市教委のサポートも受けながら、今後も教務やGIGA担当とともに、校務DXを推進していく。授業や校務でのICTの活用も担当を中心に推進し、効率的な活用を進めていく。また、常に業務内容の見直しを模索しながら、学校全体で行うにつなげるスリム化・効率化を考えながら、業務の平準化を進めていく。
知(確かな 学力の育成)	①(基礎基本の育成) 学習規律の確立と主体的な家庭学習により、基礎的知識・技能の定着を図る。	教務	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト(知識・技能)の平均点 A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満	【単元末テスト国語 88.2点 算数 90.6点】 国語と算数において、つけたたい力を確実に付けることができるよう、取り組みの重点を共通理解し、授業実践、検証を行った。学校研究でも取り扱っている算数については、単元末テストの知識・技能の全校平均点数が90点を越えた。教師の学期末のふり返りでは、学力向上プランである「使わせない数字や算数用語など言葉を意識して授業を使わせた」の項目で授業者の100%が意識したと答えた。	B 検証用の「テスト結果」や「教師の意識アンケート」の結果を全職員で共有し、その上で、実践した、その成果と課題について話し合う。それを踏まえて、2学期の重点取り組みについて低中高部会で話し合い、学校として大目に見ていくことを決める。主体的に学ぶ児童の姿となる教育を目指して、授業を見合う時間を創出。教師も児童も互いに学び合うことができるようにする。
	②(主体的に学び目標達成する授業づくり) 算数科を中心に、ねらいを明確にし見方・考え方を働かせる授業づくりの研究を推進することで、その単元でつけたたい力を確実に身につけて、意欲的に思考し伝え合える児童の育成を図る。	研究	【児童アンケート②③】 ・算数の授業が分かる。 ・友達と意見を伝え合ったり一緒に考えたりすることのよさを感じている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～D: 70%未満 【単元末テスト】 ・算数の単元末テスト(思・判・表)の平均点 A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満	【児童②91 % ③92.7%】【単元末テスト 80.6点】 算数科の単元で取組ませたい見方・考え方を明確に持って授業としたことで、多くの児童は、「算数の授業が分かる」「友達と意見を伝え合ったり一緒に考えたりすることのよさ」を感じることができている。 しかし、単元末テストの思考力・判断力・表現力等の資力・能力をみると、8割程度、知識及び技能に比べると定着が弱かった。	B 2学期も引き続き、単元で働かせたい見方・考え方を明確にして、単元構想を行っていく。その上で授業構想シートを活用しながら、児童の「分かる」「できた」につなげていく。2学期は、6年生の授業を来年度が参観する授業交流に取り入れ、目指す授業の姿を共有していく。教師同士の授業参観も行い、授業力の向上を目指す。 思考力・判断力・表現力等の向上については、教師と児童で考え方や学び方を確認していく。児童が考え方の視点を知り、実際の授業の場面で使っていくことで、日々新たな課題に出会った際に思考し、考えたことを相手に説明できる児童の育成を図る。
	③(GIGAスクール構想の推進) GIGA校内研修推進リーダーを中心に、研修を行うことで、全教職員が「児童が一人一台端末を効果的に活用して学ぶ授業」の実践力をつける。	G I G A 推進リーダー 1校1校内研修推進	【児童アンケート④】 ・授業で、ICT機器を使って学ぶよさを感じている。 【教職員アンケート⑤】 ・研修で学んだことをいかして、ICTを効果的に活用した授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%～C: 70%～D: 70%未満	【児童④95%】【教職員⑤ 91.6%】 昨年度から教師も児童も積極的にICTを使っており、ICTを効果的に使って授業ができていた。子供たちも自分達でICTを使う場面選んだり、必要なアプリを選択する姿が見られた。	A ICTを使った良さは理解しているものの、ICTの危険な部分も学ばせていきたい。そのために、デジタルリテラシー教育が必要であると考え、また、ICTを使った良さも広げていってほしいので、様々なツールが使えることや多様な場面で使っていくことを指導していく。
徳(豊かな 心の育成)	①(積極的な生徒指導) 共感の人間関係を育む言動を豊かにする積極的な生徒指導の取組を実践し、あたたかな人間関係でつながる学級経営を行っている。	生徒指導	【教職員アンケート⑧】 ・「生徒指導の4つの視点を生かす言葉かけ」を授業や行事の中で意図的に使うようになっている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～D: 70%未満	【教職員⑧ 91.7%】 積極的な生徒指導を全校で推進するために、「全員発表大作戦」を全校で行った。教師がどの児童も発表ができるような環境の設定したり、安心して自分の思いや考えを伝えられるように児童の言動を価値づけたりを行ったりした。どの学級でも児童が積極的に発表し、クラス全員で頑張ろうとする姿が見られた。	A 2学期も積極的な生徒指導を全校で推進するための取り組みを計画・実施し、教師が「生徒指導4つの視点を意識した授業づくり」を行えるように実践する。また、教師が児童の言動を価値づけ、あたたかい人間関係につながるような指導ができるように、具体的な指導方法を共有できる場を設定していく。
	②(主体性・協働性の育成) 学校生活全般において、主体的に取り組む姿の推進や互いを大切にしたい協働性を高める実践を通して、「より良い学校・学校を自分たちでつくる」という意識を高める。	生徒指導	【児童アンケート⑤⑥⑦】 ・友達と協力して活動ができた。 ・あいさつができた。 ・進んで行事や授業などの活動に取り組むことができた。 A: +評価90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	【児童⑤96.1 % ⑥98.9% ⑦96.7%】 今年度の児童会目標(前期)を「できた笑顔、みんなで笑顔、あがけようの笑顔」とした。代表議会で、その3観点について現状や意見を出し合い、できている笑顔をさらに広げたり、もっと増やしたい笑顔を共通実践事項としたりしていった。児童の笑顔の前後には、児童の学びや主体性がある。児童会が主となり取り組んでいる3つの笑顔を後期も継続実践していきたい。	A 2学期は、運動会や秋の遠足などの行事や、学習交流や日々の授業などの中で、各担任が生徒指導の4つの視点と絡めて3つの笑顔を増やしていく。また、その笑顔の良さを児童自身が実感できるように価値づけも大切にしていく。児童全体が能動的に取り組むことができるよう、取り組みを広げたり手段を見直し実践を模索していく。例えば、代表議会で使用している「3つの笑顔の取り組み表」を全校で共有し、できていることをさらに伸ばそうとしたり、もっと広げたい笑顔を見つけたらすることができるようしていく。
	③(自己有用感の育成) 授業や様々な行事・活動において、児童に成長しようとする意欲を持たせ、自己評価・相互評価を通し自己有用感を高める活動を実践している。	生徒指導	【教職員アンケート⑦】 ・児童が学校・学級や友達の役に立っていると感じられる活動を意図的にやっている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～D: 70%未満	【教職員⑦ 100%】 各学年において様々な異学年交流が行われた。上学年として自覚を持って下学年に接することができた。 「全員発表大作戦」では、児童が自分の思いや考えを積極的に伝えようとする活動を全校で行った。児童が自分自身の活躍できる場を見つけたことができた。また、児童の頑張りを点数化することで、成長を実感することができた。	A 運動会などの行事を活用して、他学年同士が互いの良さを発見して、認め合う活動を実施し、児童の自己有用感が高まる活動を行っていく。 2学期も生徒指導より、授業の中で児童が自己の成長を感じられる実践を推進する。また、教師が積極的に、児童が前向きに授業に参加する姿勢を価値づけることで、児童が自分で頑張りを実感できるようにしていく。
体(健康やかな 身体力の育成)	①(体力・運動能力の向上) 児童が主体的に取り組む体育科の授業や体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	【体育カード】 ・重点種目(鉄棒・持久走)において各学年の目標を達成することができた。 【児童アンケート⑨】 ・体育の授業が好きだ。 【教職員アンケート⑨】 ・児童が意欲をもって取り組めるよう体育の授業を工夫している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～D: 70%未満	【児童⑨ 91 %】【教職員⑨ 90.9 %】【体育カード 83 %】 今年度より2週間程度長く鉄棒旬間を設けた。児童に鉄棒カードを配布して学年の目標の技を示した。さらに交流期間を設けて高学年が低学年に技を教える場を用意し、技の習得率向上を図った。 学級の単位で合わせた、授業内容の工夫を図った。内容に応じて外部講師を招待する学年もあり、児童が楽しみながら授業に参加し、苦手を克服できるよう工夫がされていた。	B 鉄棒技の習得に関して、他学年に比べて3・4年生の習得率が低い結果になった。休み時間に取り組むなど意欲的な姿がよく見られたが、技を持ち上げる腕の筋力が足りずに技の達成に至らなかった児童が多く見られた。 これらの実感から、鉄棒に留まらず総合的な筋力アップに向けて、児童に身につけさせたい。後期は意識しづらいに明確した授業づくりを行うよう、校内研修等で呼びかけていく。
	②(命を守る取り組みの推進) けが・熱中症予防等の指導を通して、自らの健康や命を守る判断力を育てる。	保健体育部	【児童アンケート⑩】 ・安全な生活を送るための正しい行動を自分で考えられている。 【教職員アンケート⑩】 ・安全な生活の推進を養護教諭や保健委員会等と連携して取り組んでいる。 A: +評価90%以上 B: 80%～C: 70%～D: 70%未満	【児童⑩ 92.2 %】【教職員⑩ 92.3 %】 児童玄関に毎日WBGTなどを記録し、児童に目に見える形で掲示することや熱中症に対する意識を高めることができた。具体的な数値化することによって、避難訓練や防災訓練では、教職員・児童共に生命の安全を図るための行動を危機意識を持って取り組むことができた。夏季休業中にもは教職員の防災訓練の校内研修を行い、学校に不審者が来た際の対応を実践を交えて講習することができた。	A 1学期の後半は梅雨の時期や暑さのため、校内で過ごすことも多く廊下を走る児童が多かった。大きなけがにはなっていないが、今後も教職員から廊下の声掛けだけではなく、保健委員会等と連携し児童自身が廊下を走る危険性などを考えけがの防止につながる行動につなげていく。
	③(生活習慣の確立と心の調整力の育成) 自らの心身の健康や生活習慣に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等を利用し、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	【家庭学習ががんばりカード】 ・各家庭で決めたいメディアの達成率 A: +評価90%以上 B: 80%～C: 70%～D: 70%未満	【家庭学習ががんばり週間カード 88.6 %】 今年度も家庭学習ががんばりカードにメディアの項目を入れることで規則正しい生活や学習習慣をリンクさせることができた。メディアの利用は各家庭で温度差があることが感じられたが、家庭学習ががんばりカードの取組結果をお知らせしたことでメディア利用に関する意識を高めた。基本的な生活習慣の確立の一つとして、今年度は歯と口の衛生週間に合わせて歯科衛生士のお話を聞き、毎日の歯みがきの実践につなげることができた。	B 引き続きメディアの利用の利便性だけではなく、身体に及ぼす弊害などを保健だよりなどでお知らせし、利用時間を含めたルールの大切さを伝えていく。また達成率が低い児童には個別に本人や保護者に伝えたり、3学期の学級懇談会の際に情報交換をしたりする機会を設ける。
家庭・地域との 連携	①(ふるさと愛の醸成) 様々な体験を通して、能美市や根上の自然や歴史・産業・文化に触れ、ふるさとを愛する心と態度を養う。	教頭	【児童アンケート⑪】 ・地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかってい良さを発見したりできた。 【教職員アンケート⑪】 ・学校運営協議会や地域の方と協力して、地域をいかす授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%～C: 70%～D: 70%未満	【児童⑪ 87.1 %】【教職員⑪ 83.3 %】 今年度も学校運営協議会の方とも連携してふるさと教育を推進することができている。地域の施設見学や体験活動など児童が直接地域に関わる機会を多く取り入れた。これらの活動を通して、児童は地域の良さや誇りを実感し、教職員も地域と連携したふるさと教育の意義を再認識している。	B 教職員が計画的に地域と連携した活動を構築し、児童が主体的に関わる学習機会をさらに充実させていく。地域の方との協働を求め、話を聞いた後に活動したりする中で、教職員も子どもと共に学ぶ姿勢をもちながら授業を工夫する。ふるさとへの思いや理解を、自分なりの言葉で表現しながら、地域に親しみをもち関わり合うとする子どもの姿をまわしていく。
	②(コミュニティスクールの推進) 学校と地域・家庭が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、「開かれた学校」づくりを進める。	教頭	【保護者アンケート⑨】 ・PTAの取組や地域行事にできるだけ参加している。 ・学校運営協議会委員の意見 学校と地域が目標を共有して、連携・協働して活動している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～D: 70%未満	【保護者⑨ 88.3%】 今年度も、授業参観や学級懇談会、個人懇談会等も例年通り開催できて保護者の参加率も高くなっている。学校と地域、家庭が一体となって子どもを地域で支え育む体制づくりに進めることができている。保護者の地域活動への理解と協力もあり、学校と地域、家庭の連携強化が着実に進んでいる。また、ほぼほぼ全学年とも多くの児童が参加し、地域の方とのコミュニケーションを図ることができている。	B 学校行事や学習の様子はお便りやホームページ等でも利用し、保護者や地域に伝えていく。PTA広報誌「啓道」でも、PTA活動について伝えたい。 CS委員や地域の方、学校へ支援にとても積極的であり、教育活動に協力的な方である。今後も、地域の方とのつながり大切に、学校と地域が協働的に活動できるようコミュニケーションを図りながら、「福岡子」を育てていくよう努める。